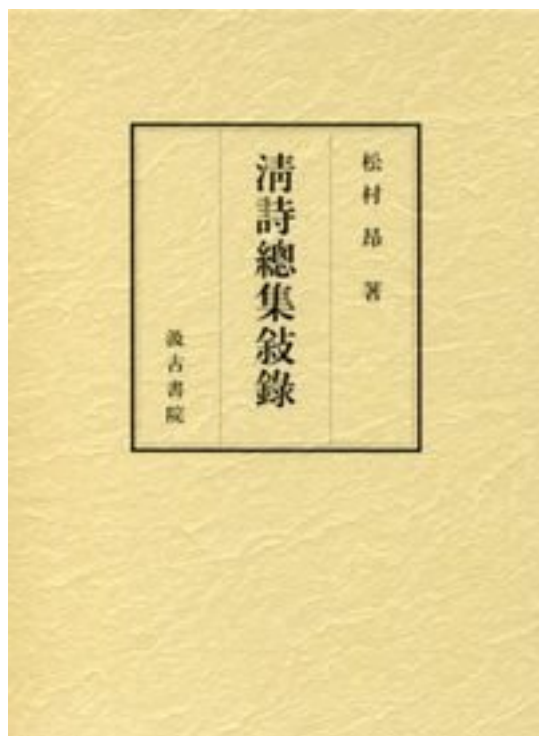


清诗总集叙录



[清诗总集叙录_下载链接1](#)

著者:[日]松村昂

出版者:東京：汲古書院

出版时间:2010-11

装帧:平装

isbn:9784762928840

本书是作者继其《清诗总集 131 种解题》（日本中国文艺研究会 1989 年 12 月）之后，研究清诗总集的又一著作。全书著录各类型清诗总集约二百种，从清初王士禄辑《涛音集》到民国时期徐世昌辑《晚晴簃诗汇》，每种介绍其编者、版本、序跋、体例、内容以及收藏单位等，资料丰富，叙述详明，多有作者研究心得。卷首《前言》，论及清诗总集的基本情况和大致分类，并统计到本书所著录的总集共收清代诗人“绝对数为四万四千百二十家左右”（第 3 页）。卷末《后记》，按年代回顾作者研究清诗总集的历程，前后穿约四十年。全书最末，还附有本书所涉《人名索引》、《书名索引》。在迄今为止的清诗总集文献学研究方面，本书代表着最高的水平。它的问世，对促进清诗总集以及整个清代诗歌的研究，

都具有重要的意义。（朱则杰）

清詩とは、清人が清代に作った詩をいう。清人とは、初めは一六四四順治元年以後に亡くなった人々、終わりは一九一一宣統三年にすでに成人に達していた人々とする。初めについていえば、例えば錢謙益は、その卒年が一六六四康熙三年であるから、明らかに清人である。その詩は、明代のものが『初學集』に、清代のものが『有學集』に收められるから、後者のみが清詩ということになる。しかし明末清初の詩家において、明詩と清詩がこのように截然と區分されるのはむしろ例外で、ほとんどの詩家にとって、このような區分はむずかしい。ただ原則として設定することは許されるだろう。清末民國初の詩家についても同様である。わざわざこのように斷わるのは、明末清初の詩家を、新政權に協力したか否かで明人と清人とに分けたり、作品の傾向によって明詩と清詩に分ける方法も存在するからである。詩の總集とは、詩の別集と對をなし、二家以上の詩家の作品を集めた書物である。その内容はもとより多岐にわたるが、まず、對象とする詩家の地理的範圍のもうけかたから見て、全國的規模のものと地方的規模のものに分けることができよう。そのうち全國的總集は、網羅的なものと、家數限定のものに分けることができる。地方的總集については、まず、行省によって多寡の差が明白である。特に江蘇・浙江に多いことは、この地方の文化的先進性を如實にものがたっている。『清史稿』卷百四十八・藝文志四・總集類、および武作成編『清史稿藝文志補編』集部・總集類（一九八二年・中華書局）から清詩總集を摘出すれば、三百五十種はくだらないとおもわれるが、そこに記載されているもの（詩文評類からの一種を含む）を主とし、記載されていないものをも加え、私が本敍録に項目立てをしたのは、和刻を除き、附録を含めて、全國的總集が八十種、地方的總集が七十七種の、あわせて百五十七種になる。このうちの、人名索引のためにカードをとった百三十種において、一首以上の詩をもって登載される詩家の絶對數は（つまり延べ人數ではなく）四萬四千三百二十家前後である。

本敍録は清代詩史の一環をなすといえよう。しかし編輯者のおおかたが、理念として總集の全國的と地方的とにおいて、それぞれが『詩經』の「雅」と「風」とを掲げる。そのため、ある時期の詩風を着實に反映することにつながることもあるようにおもえる。

作者介绍:

目录:

[清诗总集叙录_下载链接1](#)

标签

工具书

海外中国研究

目录学

叙录题跋

目錄學

清代文学

明清

日本

评论

[清诗总集叙录 下载链接1](#)

书评

[清诗总集叙录 下载链接1](#)